

緊急住宅会議 第14回会議 議事録

日 時：2015年2月20日 19:30～20:50

場 所：内野設計

●『緊急住宅会議』（別紙参照）

- ・「緊急」事態の程度を事前に軽減するための課題解決への協働体制の構築を「緊急」に対応する必要がある。
- ・緊急住宅会議での取り組みや美波町木の家づくりの仮設住宅、このすまい、風社などの前例を他地区へ波及させる情報発信を。
- ・徳島型仮設は場合によっては家が壊れた個人の敷地での、復興住宅への転用を見込んだ建設も考えられる。
- ・住まいの耐震改修支援パック→予算が不明の状態に応募がある？工務店や大工さん向けの事業だとして、工務店にその事務手続きが可能か？これまで耐震診断をつかさどってきた事務協と、今後扱うことになる建築士会のすみわけ、協働はうまくいくか？→事務協でパックについての話し合いがあった。両会が話し合って前向きに取り組む。
- ・住み替え支援30万円は有効。ただし、耐震診断による「使えない」判断が前提。
- ・災害に強いまちづくり計画などの策定支援：事前復興計画策定モデル事業：額が限られており（21,000千）、前向きに取り組む市町村優先になるだろう。
- ・会議で出ていた内容：逃げ地図／太陽光パネルの鉄骨架台の下部を仮設に

●意見交換

- ・既存公共施設の仮設住宅への転用可能か？応急危険度判定で「青」の体育館が避難所になるように、仮設住宅ならOK？東日本での実例を調査する。
- ・H16年に木沢での2000ミリ豪雨の際、木沢中学校を仮設住宅に転用した例がある。継続して公営住宅として使われている。調べる。
- ・避難所にできるのは新耐震（S56）以降か？
- ・学校の教室（8m角）を応急仮設住宅にインフィル改修するモデルプランを作っておく。
- ・水回りは共用で。
- ・体育館に仮間仕切りを準備しておくなどの取り組みを広げる。
- ・東日本ではホテル、旅館が避難所になった。
- ・耐震改修支援パック、シェルターでのシェルターパックとすれば広がるのでは。
- ・既存県営住宅の集約、耐震化、避難場所としての整備が進んでいる。万代町、津田松原、名東。揺れを感知して防災ボックスが開錠されて屋上への鍵が開く？
- ・既存県営住宅の階段を屋上まで上がれるようにして手すりを付ける。屋上に備蓄倉庫。
- ・敷地内のベンチにかまどを仕込む、パーゴラにシートをかければ仮設トイレに、など。
- ・「ふるさと納税」特定目的の寄付をすることで施設を数日間使える。
- ・故郷の事前復興に役立つという純粋な充足感、ひそやかなしあわせ・・・
- ・平常時には京阪神の人々で施設をシェアする。非常時には地元の人を使う。
- ・気持ちに期待せずとも、釣りができる、サーフィンができる、という直接的な充足で単純に成立するのでは。「波」と「魚」という、豊かな資源で。

●次回 3月20日（金）19:00～ @内野設計